

佐野進策先生—その人と学問—

石 田 三 樹

佐野先生は、昭和14年に大阪市に生まれ、大学院修了までを過ごされました。地元の小・中・高等学校を経て、桃山学院大学経済学部に進学されました。近代経済学にご関心のあった先生は、4年生の時に当時桃山学院大学から神戸大学へ転出された池本清先生に、大学院への進学、学問を志すことの意義を直接学ばれたそうです。

先生は、「J.M. ケインズの現代的意義」と題された卒業論文により経済学部をご卒業された後、昭和40年に大阪大学大学院経済学研究科に進学されました。卒業論文のタイトルから推察されますように、当時より先生は経済政策にご関心があり、高度経済成長期の日本の現状と併せ、「世界の中の日本」を軸に、経済政策を国際的な経済環境のもとで如何に究明していくかを生涯の研究テーマとされました。大阪大学大学院では、渡辺太郎先生の門をたたかれ、国際経済学の研究を本格的にスタートされました。

昭和42年に同研究科修士課程を修了の後、小山満男先生のもと広島大学政経学部助手に着任され、その後今日までの36年の長きにわたって広島大学政経学部および経済学部勤務し、国際経済学の講座を担当してこられました。昭和45年まだ先生が講師であった頃には、広島大学の学園紛争の団交に際し、学長のボディ・ガードをなさったこともおありでした。大学行政の面でも先生は活躍されましたが、とりわけ、二部主事として、また平成6年4月から平成8年3月までは経済学部長として、西条キャンパス移転の実施とそれに伴う経済学部組織改革に尽力され、広島大学の発展と充実に尽くしてこられました。

研究面では、とりわけ、J.E. ミードの *The Theory of International Economic Policy* (Vol.1, *The Balance of Payments*, 1951; Vol.2, *Trade and Welfare*, 1955) を模範とされ、貿易論とオープンマクロ経済学の両面において多くの業績を残してこられました。

特に、昭和50年、大阪大学への内地留学以降は、ミードの前掲書第1巻に取り上げられた *The Balance of Payments* に焦点をあて、特にポリシーミックスの理論、すなわち対内均衡—インフレなき完全雇用—と対外均衡—国際収支均衡—を同時に達成するための政策手段の割り当て問題を中心にご研究を重ね、数多くの成果を論文として発表されています。

一連のご研究は、『国際収支理論研究』[1982]にまとめられています。この著書で、先生は国際収支の定義、国際収支へのアプローチ、為替相場調整の国際収支に与える効果を確認した上で、マンデル＝フレミング・モデルの検討をされています。これらの準備作業は、上述の政策手段の割り当て問題を的確に議論するには不可欠で、非常に着実に周到しかも的を射た議論の進め方であると敬服いたします。

政策目標としてミードの言う対内均衡と対外均衡の2つに限定するとき、いわゆるジレンマ・ケースにおける目標達成のための議論は、ミード＝ティンバーゲン＝マンデルの理論で一応完結されたとも言われます。(佐野[1982]、p.207を参照のこと。)しかるにこれを現実に適用する際の重要な問題点も多く、同時に近年の国際的相互依存関係の進展から、経済政策の国際的調整が(その効率性の議論を含めて)不可欠であるとも指摘されています。

小生が先生にお会いしたのは、この後昭和61年のことです。当時の先生の大学院ゼミナールには、韓国から来られた文柄烈氏、権俸基氏(現在呉大学社会情報学部教授)をはじめ、山中逸郎氏(鈴峯女子短期大学助教授)や安武公一氏(広島大学経済学部講師)など蒼々たるメンバーが在籍されていました。この時期に先生のゼミナールに参加させていただき、国際経済学の理論動向はもとより、クラスの運営方法などを学んだことはその後の私の宝になっています。あるテーマについての研究をする際には、まずその基

礎となる議論をおさえなければならぬとの姿勢は、いつの時代のどの分野にも適用できる法則に違いありません。先生は、その豊かな学識と卓越した指導力によって学生の教育・指導にあたられ、学会および社会に多数の有為な人材を送りだしてこられました。

個人的には、大学院生諸君とともにご自宅に招待していただいたこともあります。食後の団欒の際に、中学生のお嬢さん方とスクラブルというゲームをして遊んだことも昨日のことに思い出されます。先生のあたたかな人柄と奥様のやさしさが形作られた家庭は小生の理想とするところです。

昭和62年3月から12月にかけて、先生はオーストラリア国ニューサウスウェールズ大学およびアメリカ合衆国カリフォルニア大学デービス校に出張し、「日本の国際経済関係の研究」を行われました。また、平成12年秋には、中華人民共和国天津特別行政区南開大学において、WTOに関するご講演を行われ、WTO加入を目前とした中国の学生諸君と活発な意見交換をなされました。最終講義の論題も「WTO体制下の地域経済統合と日本の対外経済政策」であり、国際経済の制度面、機構面へのご関心の高さを窺い知ることができます。これらの国際機関は各種の首脳会議とともに経済政策の国際的調整をはかる場となるものであり、先生の学問的関心の一貫性に驚くばかりです。今後とも、その一貫したスタイルで研究を続けられ多くの論文を発表続けられることを願ってやみません。

佐野先生は本年4月からは福山大学経済学部経済政策国際経済学担当教授として引き続き、研究・教育にあたられます。広島大学政経学部ならびに経済学部における佐野先生の長きにわたるご尽力に感謝を申し上げますとともに、今後とも先生がますますお元気に研究を続けられることを心よりお祈りいたします。